

途中下車の今昔　その先に在る物

93　滝高校　放課後レールウェイ

「次は～神戸三宮～・・・」

重い空気と共に、吐き出されるように電車を降りた。

ーうん、懐かしいな。いつぶりだろう。

ピッ　…　改札を降りると、一瞬にして人の波に飲み込まれた。

壁際へと逃げ、一息つく。

顔を上げると、眼前の街の様子に、俺は酷く狼狽する。

ーそうか、最近再開発されたんだよな。

見渡すと、駅ビルが、「今風」の建物たちが、大きな威圧感で佇んでいる。それだけで、酷く疲れた心地がする。

ーここは、俺には合わないみたいだ。

自然と足が駅へと向かったとき、ふと、あるものが目に留まった。

古びたパンフレット。昔の駅前の姿が、そのまま残っていた。途端、ぐっと昔の感覚に引き戻される。今まで目につかなかった物が意識される。「今」に「昔」が散りばめられているんだ。

昔通った道を指でなぞり、目の前の景色に、改めて目を向ける。

誰かに背中を押された気がした。

もう少し、頑張ろうと思えた。